

舞台芸術のアクセシビリティを実践で学ぶ人材 育成プログラム「STAGE for ALL 2026」開催 ～舞台芸術へのアクセスと社会の障害を考える～



国内2作品との実践を通じて、舞台芸術のアクセシビリティを担うプロフェッショナルを育成

株式会社precog（東京都新宿区）は、文化庁委託事業「令和8年度障害者等による文化芸術活動推進事業」の一環として、舞台芸術の企画・制作・劇場運営に携わる人を対象とした実践型人材育成プログラム「STAGE for ALL 2026」を開催します。

障害者差別解消法の改正による合理的配慮の提供の義務化など、舞台芸術の分野でもアクセシビリティへの関心が高まりつつあります。一方で、舞台芸術の現場では、音声ガイドや字幕、手話通訳などのアクセシビリティを企画・運営できる人材や、実践を学ぶ機会は依然として限られているのが現状です。

「STAGE for ALL」は、こうした課題に応えるために昨年度始動した実践型の人材育成プログラムです。舞台芸術の現場に関わる幅広い人々を対象に、国内外の実践や実践者との対話を通じて、「誰に、どのように作品を届けるのか」を創造的に考え、実践できる人材の育成を目指しています。

2026年度は、国内2作品と連携し、受講者が実際の公演現場でアクセシビリティの企画・運営を学びます。さらに、専門家との共同リサーチで国内外の先進事例を調査し、その成果を公開講座で発信します。

株式会社precog代表／パフォーミングアーツプロデューサー 中村 茜 コメント

わたしたちは、アクセシビリティや情報保障について、2019年頃から実践を重ねてきました。7年足らずですが、日本でもこの領域の基礎知識や専門性が広く普及し、基盤整備が進み始めた時期と重なり、毎年知見を更新しながら、技術的にも思想的にも新たなチャレンジを積み重ねてきました。

アクセシビリティも情報保障も、作家・作品に極めて近い存在であり、創造的な活動の延長にあります。そのため正しい「解」はなく常にトライ＆エラーを繰り返しながら知見を蓄えています。また、こうした取り組みをマジョリティ側の建前的な配慮で終わらせず、「当事者」と対話しながら形づくる、より公平な実践へいかに育てていけるかという問いも大切にしています。

このような経験や思考・実践のプロセスをより広く共有することで、鑑賞環境だけでなく、創作環境そのものも変化していくことを期待しています。

STAGE for ALL 2026の特徴

1. 国内2作品と連携し、実際の公演現場でアクセシビリティの企画・運営を学ぶ実践型プログラム

本プログラムは、企画制作者、劇場スタッフ、舞台技術スタッフ、アクセシビリティコーディネーター、アーティスト、俳優、ダンサーなど、舞台芸術の現場に関わる幅広い人々を対象に開催します。

受講者は実際の公演現場で、事前のディスカッションから、公演当日の運営、終了後の振り返りまで一連のプロセスを経験します。実践を通してアクセシビリティ設計の考え方や運営上の課題への理解を深める全国でも珍しいプログラムです。

2. 海外の先進事例を公開講座で発信

専門家と連携し、各国の文化芸術関係者、障害当事者団体、カンパニー、専門家へのヒアリング調査を通じて、アクセシビリティを作品づくりや劇場運営に組み込む事例を収集。海外で広がる実践を調査・分析し、日本ではまだ十分に共有されていない実践や考え方を公開講座で広く発信します。



STAGE for ALL 2025の様子（左：ワークショップ講座〈奈良〉（撮影：山神美琴）、中央・右：ワークショップ講座〈東京〉（撮影：縣健司））

プログラム概要

本プログラムでは、テーマの異なるAコース・Bコースの2つのコースを開講します。**各コースは全5講座に加え、実際の公演運営に参加する実践プログラムで構成されています。**前半は、実践者によるクロストークや海外事例から学ぶオンライン講座、後半は実践講座と公演運営を通して、アクセシビリティの企画・運営を実践的に学びます。

- 各コースの定員は15名です。定員に余裕がある場合は、Aコース・Bコースの両方を受講いただくことも可能ですので、ご希望の方はお申し込み時に「両方受講したい」をご選択ください。
- コース受講者は、原則として各コースの全5講座に加え、連携公演での本番運営にも参加していただきます。各コースにつき上限1万円の交通費補助があります。やむを得ず参加できない日程がある場合は、事前にご相談ください。
- なお、各コースの前半の2つのオンライン講座は公開講座として実施し、コースを受講しない方も単独で受講いただけます。

詳しくは【募集要項】をご覧ください。

「アクセシビリティ設計」と「創作と鑑賞環境のデザインを学ぶ」を学ぶ2つのコース

テーマの異なるAコース・Bコースの2つのコースを開講します。それぞれ全5講座で構成され、前半は実践者によるクロストークと海外事例から学ぶオンライン講座、後半は実践講座と公演運営を通して学びます。コース受講者は、原則として全5講座に加え、連携公演での本番のアクセシビリティ運営にもご参加いただけます。やむを得ず参加できない日程がある場合は、事前にご相談ください。

なお、各コース共に、前半のオンライン講座（2講座）は、コースを受講しない方でも単独で受講できる公開講座として実施します。詳細は募集要項をご覧ください。

Aコース/Bコース
定員
各 15 名

Aコース

公演のアクセシビリティ設計と運営を実践的に学ぶ

【開催期間】2026年9月～11月

9/2(水) オンライン講座
実践者のクロストークから学ぶ

9/4(金) オンライン講座
海外の取り組みから学ぶ

9/13(日) 実践講座(東京)
題材となる作品を知る

9/27(土) 実践講座(東京)
鑑賞サポートの役割を知る

11/8(日)公演(山梨県)
舞台公演のアクセシビリティ運営

11/20(金) 実践講座(Zoom)
振り返り・まとめ

オンライン講座で事例と知識をインプット

実践講座でアクセシビリティの企画をアウトプット

Bコース

多様な観客を前提とした創作と鑑賞環境を学ぶ

【開催期間】2026年10月～2027年3月

10/1(水) オンライン講座
実践者のクロストークから学ぶ

10/2(金) オンライン講座
海外の取り組みから学ぶ

1/9(土) 実践講座(兵庫)
題材となる作品を知る

1/20(日) 実践講座(兵庫)
鑑賞サポートの役割を知る

2/23(水) 公演(兵庫)
舞台公演のアクセシビリティ運営

3/4(土) 実践講座(Zoom)
振り返り・まとめ

オンライン講座で事例と知識をインプット

実践講座でアクセシビリティの企画をアウトプット

Aコース・Bコース共通

原則として、全日程参加できる方を対象とします。定員に余裕がある場合は、Aコース・Bコースの両方を受講いただくことも可能です。

受講料 (コース別)

一般：15,000円
U29：12,000円

宿泊・交通費補助あり
※各コース上限10,000円・条件あり

【オンライン講座のみを単独で受講したい方】
1講座：1,000円
全講座通し(4講座)：3,000円
※実践講座のみの受講はできません。

Aコース連携公演 劇団ベニノ新作時代劇「煙火(うずみひ)」
会場：オーバード・ホール(富山県芸術文化ホール)、KAAT 神奈川芸術劇場

Bコース連携公演 「小松菜々子 × 増尾俊 / パリナオズ」
会場：ArtTheater dB KOBE

Aコース | 公演のアクセシビリティ設計と運営を実践的に学ぶ

芸術を享受する権利は、誰もが等しく保障されるべきものです。音声ガイドや字幕、舞台手話通訳など、舞台を楽しむために必要な情報保障は、特別なサービスではなく、当たり前環境として実現されていく必要があります。しかし現状、舞台芸術の現場では、予算や制度、知識や人材の不足など、さまざまな障壁があり、十分な対応がなされているとは言えません。

アクセシビリティを後から追加するものではなく、作品づくりの初期の段階から組み込むものとして捉え直すためには、どのような視点が必要なのでしょう。また、演出家や出演者、制作者、舞台技術スタッフ、アクセシビリティ監修者やアクセシビリティコーディネーターなど、多様な立場の人々はどのように連携していけるのでしょうか。Aコースでは、こうした問いを出発点に、作品ごとのアクセシビリティ設計・運営を学びます。

オンライン講座

第1回 9月2日(水) 19:00～21:00 | オンライン(Zoom)

日本のパフォーマンスアーツをアクセシブルにするための視点と方法

～舞台技術スタッフ×アクセシビリティ監修者×制作者 対談～

舞台芸術におけるアクセシビリティは、音声ガイドや字幕、手話通訳などを公演後に付加するだけでなく、作品づくりや劇場運営のプロセスの中に組み込んでいくことが求められています。

本講座では、アクセシビリティ監修者・廣川麻子氏、舞台技術スタッフ・平井徹氏、プロデューサー・中村茜氏によるクロストークを通して、日本の舞台芸術における現状や課題、実践の方法を共有します。創作・技術・制作の各領域がどのように連携し、作品の可能性をひらくアクセシビリティを実現していけるのか。そのために必要な視点や具体的な取り組みについて考えます。

【登壇者】



廣川麻子（NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク 理事長）

1994年（社福）トット基金日本ろう者劇団に入団。2009年愛の輪基金ダスキン障害者リーダー育成海外派遣生として1年間、英国Graeae Theatre Companyを拠点に研修。2012年シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)設立。2015年度（第66回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（芸術振興部門）ほか。手話のまち東京国際ろう芸術祭2025総合プロデューサー。東京大学先端科学技術研究センターにてTA-netの活動をベースに芸術文化における情報アクセスの啓発と普及を通じた社会実装の可能性を研究中。



平井徹（KAAT神奈川芸術劇場 舞台技術課）

フリーの舞台監督として活動後、1997年に入団した彩の国さいたま芸術劇場で舞台技術スタッフとして、蜷川幸雄、竹内統一郎演出作品をはじめ、国内外の公演作品に携わる中、ジェニー・シーレイや、近藤良平とハンドルズの公演に関わる。2015年度文化庁在外研修員としてイギリスにて劇場技術、社会的包摂の研修を行う。帰国後、国際障害者交流センタービッグアイの公演に関わり社会的包摂を学ぶ。2019年に神奈川芸術劇場に入団しプロダクションマネージャーとして活動。



中村茜（株式会社precog 代表／パフォーミングアーツプロデューサー）

日本大学芸術学部在籍中より舞台芸術に携わる。2004年から2008年までSTスポット横浜プログラムディレクターを務め、2006年に株式会社precogの立ち上げに参画。2008年より同社代表取締役。2016年から2018年までアジア・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティとしてバンコクとニューヨークに滞在。国内外でパフォーミングアーツの活動をプロデュースするほか、近年の活動として、アクセシビリティに特化した配信事業「THEATRE for ALL」などを手掛ける。第72回文化庁芸術選奨・文部科学大臣賞新人賞を受賞。国際芸術祭「あいち2025」のキュレーター（パフォーミングアーツ）を務める。



進行：長津結一郎（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授）

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行なっているほか、ワークショップに関する教育、演劇・ダンスのマネジメントやプロデュースにも関わる。

著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）

第2回 9月4日(金) 19:00～21:00 | オンライン(Zoom)

海外事例に学ぶ「創造的なアクセシビリティの実践とそのプロセス」

STAGE for ALL リサーチチームが、各国の文化芸術関係者、障害当事者団体、カンパニー、専門家へのヒアリング調査を通じて、アクセシビリティを作品づくりや劇場運営に組み込む実践を調査します。オンライン講座では、海外で広がる創造的なアクセシビリティの考え方や具体的な事例を紹介し、日本の舞台芸術における実践につながる視点を共有します。



STAGE for ALL 2026 リサーチチーム

メンバー：篠田栞（株式会社precog）、野崎美樹、箕浦萌（株式会社precog）

連携：並木重宏（東京大学先端科学技術研究センター インクルーシブデザインラボラトリー准教授）

実践講座(第3回～第5回) + 公演運営

『埋火』を題材に学ぶ、視覚障害のある人と共に作品を楽しむための鑑賞サポート

開催場所・日程

東京都内：第3回 2026年9月13日(日)、第4回 9月27日(日)

公演運営（富山または神奈川）：2026年11月8日(日) または2026年11月14日(土) のどちらか1日

オンライン(Zoom)：第5回 11月20日(金)

庭劇団ベニノ 新作時代劇『埋火（うずみび）』の公演と連携し、視覚障害のある人が舞台作品を楽しむための鑑賞サポートについて、企画・設計から公演当日の運営、公演後の振り返りまで、一連のプロセスを実践的に学びます。受講者は、第3回以降の講座におけるディスカッションを通じてアクセシビリティの設計に参加し、以下の公演におけるアクセシビリティ運営に参加します。音声ガイド利用者への対応、受付や誘導など、来場者を迎える現場を経験し、実践を通して作品ごとのアクセシビリティ設計や運営上の課題について理解を深めます。なお、実践講座への参加条件は、Aコースオンライン講座の第1回、第2回を含めたコース全体の通し受講を前提としています。

連携公演について

『埋火（うずみび）』

作・演出：タニノクロウ

出演：緒方晋、かわい いねこ、柴田鷹雄、関場理生、百元夏繪（五十音順）



庭劇団ベニノ

2000年1月に昭和大学演劇部メンバー有志にて結成。自宅マンションを改造した劇場スペース「はこぶね」や、野外での上演など、空間そのものへの鋭いこだわりを特徴とし、緻密に作り込まれた美術とともに独自の世界観を提示してきた。2009年以降は、国内のみならず、ドイツ、オランダ、オーストリア、イタリア、スイス、ベルギー、アメリカ、香港など様々な海外の舞台芸術祭へ多数招聘されている。近年はVR演劇『ダークマスター VR』など、新たな表現領域にも積極的に取り組んでいる。2016年『地獄谷温泉 無明ノ宿』にて第60回岸田國士戯曲賞を受賞。そのほか、2016年北日本新聞芸術選奨受賞、第71回文化庁芸術祭優秀賞受賞。

<https://niwagekidan.org/>

富山公演

日時：2026年11月8日(日) 13:00の回

会場：オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール) 中ホール

横浜公演

日時：2026年11月14日(土) 13:30の回／18:30の回

会場：KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

【パートナー】



彩木香里（ものがたりグループ☆ボランの会主宰／合同会社nubo代表）

ナレーターとして（株）ヘリンボーンに所属。音声ガイドナレーションに携わったことがきっかけとなり、バリアフリー講座を受講。現在、新国立劇場、東京芸術劇場、世田谷パブリックシアター、穂の国とよはし芸術劇場PLAT、東京芸術祭などの舞台公演や、公演映像のAudio Description writerとしても活動している。映画『こころの通訳者たち ～What a Wonderful World～』に出演。Aコース実践講座への伴走および、新作時代劇『埋火（うずみび）』の音声ガイド制作を担当。



真しろ

1998年大阪生まれ、東京育ち。先天性の全盲。大学で英米文学・言語コミュニケーションを専攻し英国留学を経験。現在は大手通信事業者で商品企画担当として勤務。美術館での対話型ワークショップのファシリテーターや演劇公演の音声ガイド制作など、アートの現場で幅広く活動。ブラインドスポーツプレイヤーとしても活動している。Aコースの実践講座に伴走する。



鈴木龍弥

2000年東京生まれ。全盲よりのロービジョン。盲学校卒業後、建設資材ディーラーにて新人研修や書類サポート業務に従事。視覚障害者就労支援人材バンクのメンバーとして就労相談やシンポジウム登壇も行う。障害者雇用で一般企業に勤める当事者として、アプリやウェブサイトのアクセシビリティチェックなどクリエイティブ領域のモニター活動も行っている。Aコースの実践講座に伴走する。

Bコース |多様な観客を前提とした創作と鑑賞環境を学ぶ

近年、リラクスパフォーマンスなど、障害の有無や年齢、特性にかかわらず、多様な人が舞台芸術に参加できる鑑賞環境づくりへの関心が高まっています。しかし、これまで劇場で当たり前とされてきた観劇マナーやルール、鑑賞の前提が、知らず知らずのうちに誰かの参加のハードルになっている可能性については、十分に検討されてきたとは言えません。

「誰でも歓迎します」と掲げるだけで、本当に作品や劇場はひらかれた場になるのでしょうか。また、障害の有無にかかわらず、鑑賞に不安や困難を感じる人が「この作品を観に行きたい」「劇場に足を運びたい」と思える環境をつくるためには、どのような視点や工夫が必要なのでしょうか。Bコースでは、多様な人々との共生の場づくりを長年実践してきた神戸新長田の劇場「ArtTheater dB KOBE」と連携し、地域にひらかれた劇場の実践を手がかりに参加・鑑賞環境の設計について学びます。

リラクスパフォーマンス...1990年代後半から英国を中心に発展してきた上演形態です。当初は自閉スペクトラム症のある子どもや学習障害のある人などが安心して劇場を利用できる環境づくりとして始まり、その後、障害の有無や年齢、特性を問わず、多様な人がそれぞれの方法で作品を楽しめる鑑賞環境を目指す実践へと広がってきました。現在では、上演中の出入りや発声、体を動かすことを一定程度認めることに加え、事前の情報提供や空間設計、スタッフ対応なども含めた総合的なアクセシビリティの取り組みとして位置付けられています。

オンライン講座

第1回 10月1日(木) 19:00～21:00 | オンライン(Zoom)

創作の前提を問い直す 実験と実践

～即興音楽のワークショップ・キュレーション×多様な人と創作をつなぐ実践～

これまで舞台芸術において十分に想定されてこなかった人々とともに、新たな創作や鑑賞の場をひらいてきた実践があります。本講座では、ドイツ・ベルリンで実験音楽や即興を通して多様な背景をもつアーティストが交わる場をキュレーションするうちはし華英さんと、神戸・新長田の劇場「ArtTheater dB KOBE」を拠点に、ダンスカンパニーMi-Mi-Biや〈こんにちは、共生社会（ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ）〉など、多様な人々との共生・創作に取り組んできたDANCE BOX代表理事・文さんを迎え、クロストークを行います。

言語によるコミュニケーションや、静かに座って鑑賞することを前提としてきた劇場のルールや価値観を問い直しながら、対話や即興、身体や感覚を手がかりに、人と人との関係を育む創作のあり方に着目します。一人ひとりがそれぞれの方法で創作や鑑賞に参加できる場をどのようにするのか。そのプロセスと、それを支える「アクセス」のあり方について考えます。

【登壇者】



うちはし華英 / uchihashi Kaé / Kaé U. (文筆家, Independent Curator (在野/野良/在宅))

1996年、内橋和久とともにNew Music Festival BEYOND INNOCENCE を立ち上げる。在野としては日本の雑誌やWEB媒体に執筆、UA やVerena Brückner, Salyu、とうめいロボ などへ作詞提供。野良としてはFrancesca Devalier の演劇作品に音楽制作で参加以降、数々のパフォーマンス作品を自作自演。そして在宅では小説『万能薬、としての孤独。』『ホモセンチメンタリス』を執筆、上梓(2022)。2005年ウィーン移住、2012年からベルリン在住。2024年より、ベルリンのインディペンデント・ライブスペース ausland (アウスランド) の運営/キュレーションに参加。2025年よりBeyond Innocence Workshop Series をベルリンにて始動。様々な条件や背景を持つアーティストと、ベルリンの即興演奏家たちとのラディカルな融合を仕掛けている。



文 (NPO法人DANCE BOX代表理事/こんにちは、共生社会（ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ）プロジェクト・チーフ)

神戸新長田の劇場「ArtTheater dB KOBE」を拠点に、コンテンポラリーダンスのアーティストの育成事業や、障がいをもつ人や国籍の違う人・地域の人とつくる事業を展開。ダンスと身体、表現と社会、人と地域と劇場が出会い拡張する現場を考え続けている。障害者との活動は、「循環プロジェクト」(～2012)を経て、現在はダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」にも伴走中。



進行：篠田栞 (株式会社precog THEATRE for ALL事業部 チーフ・プロデューサー)

1990年奈良生まれ。京都大学卒業後、広告代理店で企業や行政の新規事業開発・ブランディングに携わる。その後フリーランスとして独立し、広報、編集、リサーチ、進行管理など、プロジェクトの立ち上げから運営までを横断して手がける。2020年にTHEATRE for ALLの立ち上げに参画し、サービス設計、広報、コミュニティデザインの領域でprecogに参画。現在は同事業部ディレクターとして、舞台芸術のアクセシビリティ設計を軸に、人権事業や調査事業など、受託・自主事業の両面を推進している。分野や領域が交差するところに生まれる表現やケアのかたちに関心がある。奈良の田舎で小さな薬草畑を運営し薬膳を振る舞う。

第2回 10月2日(金) 19:00～21:00 | オンライン(Zoom) 海外事例に学ぶ「だれのためのシアター？世界の実践から考える作品や劇場をひらく方法」

本講座では、タイとの国際共同制作ベイベーシアター『Kaow Kome～いのちを育む、おこめの物語～』を共同演出したBambino! 0才からのパフォーミングアート共同代表・千代その子さんをゲストに迎えます。国際共同制作のディレクターとして、赤ちゃんとその家族を前提とした作品づくりや、参加・鑑賞環境をどのように設計してきたのか、その実践について伺います。あわせて、「Relaxed Performance」をはじめ、多様な観客に作品や劇場をひらく実践について、STAGE for ALLリサーチチームによる海外調査の成果を報告します。欧州やアジアを中心に、芸術祭や劇場、障害当事者団体、カンパニー、専門家へのヒアリングをもとに、各国でどのような思想や実践が積み重ねられてきたのか、日本の舞台芸術に応用できる視点や方法を紹介します。

【登壇者】



千代その子 (Bambino! 0才からのパフォーミングアート共同代表)

一般社団法人ダンストーク代表。Bambino! 0才からのパフォーミングアート共同代表。英国KS DanceおよびRambert School of Ballet and Contemporary Danceに留学し、ケント大学よりBA (Hons) を取得。帰国後、コミュニティダンスと出会い、多様な人々と身体を通して関係性を育む活動を展開している。2023年、米澤百奈とともにBambino! を結成。2025年にはタイの演出家Ladda Kongdachとの国際共同制作ベイベーシアター『Kaow Kome～いのちを育む、おこめの物語～』を共同演出し、京都芸術センターで発表。同作は本年度、韓国・タイの児童演劇フェスティバルに招聘されている。演者と観客の境界をゆるやかにひらき、乳幼児から高齢者まで、一人ひとりがそれぞれの方法で表現や鑑賞に参加できる場づくりを実践している。



STAGE for ALL2026リサーチチーム

メンバー：篠田栞（株式会社precog）、野崎美樹、箕浦萌（株式会社precog）

連携：並木重宏准（東京大学先端科学技術研究センター インクルーシブデザインラボラトリー准教授）

実践講座（第3回～5回）+公演運営

「小松菜々子×垣尾優 バリスナオズ」と考える、リラックスパフォーマンス

開催場所・日程

兵庫県神戸市(ArtTheater dB KOBE)：第3回 2027年1月9日(土)、第4回 1月10日(日)、

公演運営 2027年2月23日(火・祝)

オンライン(Zoom)：第5回 2027年3月4日(木)

ArtTheater dB KOBEで上演される「小松菜々子×垣尾優 バリスナオズ」と連携し、リラックスパフォーマンスの企画・設計から公演当日の運営、公演後の振り返りまで、一連のプロセスを実践的に学びます。受講者は、第3回以降の講座におけるディスカッションを通じて、「リラックスパフォーマンスとは何か」「誰に向けて、どのような参加・鑑賞環境をつくるのか」といった問いを深めながら、公演における参加・鑑賞環境の設計に参加します。当日は、以下の公演において受付や来場者対応などの運営にも携わり、実践を通して、参加・鑑賞環境の設計の考え方や運営上の工夫、課題について理解を深めます。

なお、実践講座への参加条件は、Bコースのオンライン講座の第1回、第2回を含めたコース全体の通し受講を前提としています。

連携公演について

小松菜々子×垣尾優「バリスナオズ」

日時：2027年2月23日(火・祝)

会場：ArtTheater dB KOBE(神戸市)

【パートナー】



DANCE BOX

神戸・新長田を拠点にコンテンポラリーダンスを中心とした創造・発信・育成を行う、今年30周年を迎えるアートNPO。小劇場「ArtTheater dB KOBE」を運営し、年間を通じて公演、アーティスト育成、国際交流、地域連携、教育・福祉分野との協働など多様な事業を展開。「国内ダンス留学@神戸」「こんにちは、共生社会（ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ）」、アーティストインレジデンス事業を軸に、地域社会に開かれた文化拠点として、ダンスを通じたコミュニケーションと創造の場を育んでいる。障害の有無や世代やルーツをこえて、様々な人の広場になるような場でありたいと考え、活動している。



小松菜々子（ダンサー／振付家／古本屋）

1993年 横浜生まれ、神戸在住。

劇場や作品が固定された物理的な空間としてではなく、人と土地、身体と記憶の関係性が立ち上がる生成的な場＝コモンズとして捉え直しながら作品制作を行う。即興的に繋がる人と人のコレオグラフィーに興味を持ち、神戸・長田の自宅一階を開放した「空地文庫」（2024～）の実践を行なう。目的と目的の「あいだ」にある余白を意図的にひらくことで、芸術と生活、表現と遊び、公共と私的領域の境界を柔らかく溶かす実践を継続して行う。ダンサーと地域の人を対象にした定期的な読書会を関西圏で開催。



垣尾優（ダンサー）

大阪市在住。1997年よりダンサーとして活動。2006年塚原悠也とcontact Gonzoを結成し2009年まで活動。岡登志子主宰Ensemble Sonne作品に関わるほか、山下残、砂連尾理、ノラ・チッポムラ、エルビィ・シレンなどの作品に出演。2018年FIDCDMX（メキシコ）ソロダンスコンペティションに選出。2019年『愛のゆくえ』@Art Theater dB KOBE、2021年『それから』@京都国際舞台芸術祭を発表。2024年京都芸術大学舞台芸術センター主催リサーチ支援型プロジェクトにおいて、即興ダンスフィールドワーク「聴くことから始まるダンス」を一年間行い成果上演として、野外パフォーマンス『しゃべらない対談』を発表。楽心荘野外能舞台にて吉岡洋（美学者）と、神戸OAGアートセンターにて山下和也（日本画家）とパフォーマンス。ダンス研究会や「待つ」ことを主題とした野外パフォーマンスなどを定期的に開催中。2022年度より京都精華大学非常勤講師。

募集要項

コース受講	
対象講座	Aコース、Bコースからお選びいただけます。定員に余裕があれば、両方のコースの受講も可能です。
Aコース	公演のアクセシビリティ設計・運営を実践的に学ぶ 連携公演：庭劇団ベニノ 新作時代劇『埋火（うずみび）』（富山公演または横浜公演） 詳細： https://theatreforall.net/projects/stage-for-all-2026/a-course/
Bコース	多様な観客を前提とした創作と鑑賞環境を学ぶ 連携公演：小松菜々子×垣尾優『パリスナオズ』（ArtTheater dB KOBE） 詳細： https://theatreforall.net/projects/stage-for-all-2026/b-course/
定員	各コース15名
受講料（A・B共通）	一般：15,000円 U29：12,000円 ※宿泊・交通費補助あり（各コース上限10,000円・条件あり）
募集開始	2026年7月15日(水) 15:00
募集締切	2026年9月1日(火) 18:00 ※定員に達しない場合は、募集期間を延長する場合があります。 ※オンライン公開講座（単発受講）は、各講座前日の18:00まで受け付けます。
申込方法	Peatixよりお申し込みください。
オンライン講座のみ	
対象講座	Aコース・Bコース のそれぞれ第1回・第2回に開催されるオンライン講座
講座一覧	【Aコース 第1回】9月2日(水) 日本のパフォーミングアーツをアクセシブルにするための視点と方法 詳細：https://theatreforall.net/join/sfa26-a1/ 【Aコース 第2回】9月4日(金) 海外事例に学ぶ「創造的なアクセシビリティの実践とそのプロセス」 詳細：https://theatreforall.net/join/sfa26-a2/ 【Bコース 第1回】10月1日(木) 創作の前提を問い直す 実験と実践

	詳細：https://theatreforall.net/join/sfa26-b1/ 【Bコース 第2回】10月2日(金) 海外事例に学ぶ「だれのためのシアター？世界の実践から考える作品や劇場をひらく方法」 詳細：https://theatreforall.net/join/sfa26-b2/
受講料	単発受講：1,000円／講座 オンライン4講座通し受講：3,000円
募集締切	各講座前日18:00まで
申込方法	Peatixよりお申し込みください。

講座のアクセシビリティ

- ・手話通訳
- ・文字支援
- ・移動サポート（要事前相談）

その他、必要なサポートについてもお気軽にご相談ください。

企画監修



長津結一郎（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授）

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行っているほか、ワークショップに関する教育、演劇・ダンスのマネジメントやプロデュースにも関わる。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）



文（NPO法人DANCE BOX代表理事／こんにちは、共生社会（ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ）プロジェクト・チーフ）

神戸新長田の劇場「ArtTheater dB KOBE」を拠点に、コンテンポラリーダンスのアーティストの育成事業や、障がいをもつ人や国籍の違う人・地域の人とつくる事業を展開。ダンスと身体、表現と社会、人と地域と劇場が出会い拡張する現場を考え続けている。障害者との活動は、「循環プロジェクト」（～2012）を経て、現在はダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」にも伴走中。

取材について

講座の見学、運営スタッフへのインタビューなど、各種取材に対応いたします。

お問い合わせ

株式会社precog STAGE for ALL事務局
E-mail：tfa@precog-jp.net
TEL：03-3528-9713
FAX：03-3528-9720

公式サイト：

<https://theatreforall.net/projects/stage-for-all-2026/>

主催 文化庁、株式会社precog

企画・制作運営 株式会社precog

広報 THEATRE for ALL

事業名 文化庁委託事業「令和8年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

